

## 臨床工学室 業務紹介

臨床工学室 課長 岡山 潤



臨床工学技士は、医療技術提供を行う臨床業務と、医療機器の保守管理を行う工学的業務の2つの異なる技能を持つ職種です。

医療技術提供には、生命維持管理装置の操作を中心とする血液浄化業務、心・血管カテーテル業務、呼吸療法業務、人工心肺・補助循環業務、その他治療関連業務があります。

医療機器保守管理は、医療機器を安全に使用するために必要な業務です。医療機器管理台帳の整備、保守点検の計画お

よび実施、適正な使用方法の教育を担っております。

当院の臨床工学室は、「地域住民のために存在し、高度急性期医療を目指し、思いやりの医療を持って地域社会に貢献する」という病院理念に基づいて、循環器部門・血液浄化部門・医療機器管理部門にそれぞれ永瀨・石井・飯田の3名の責任者を配置し、計6名のスタッフで業務を行っております。

平成27年の新病棟の稼働に伴い、血液浄化センターでのオンライン血液透析濾

過療法を導入しました。透析困難症や透析アミロイドシスの治療、若年透析患者の合併症予防が期待できます。

呼吸療法においては、以前は従量式の呼吸モードが主流でしたが、最近では高い圧をかけることが肺に悪影響を及ぼすことが報告され、従圧式を用いることが多くなってきました。ICU、および平成29年6月より稼働したHCUでは、より高度な医療に対応できるよう、従圧式の呼吸モードに特化した最新の人工呼吸器2機種を導入しております。

また、各領域で、透析技術認定士・呼吸療法認定士・体外循環技術認定士・第2種ME技術実力検定・医療機器情報コミュニケーター(MDIC)・国内外の救急蘇生講習認定インストラクターなどの認定を取得しております。専門性の高い技術・知識を提供し、安全で良質な医療で医師や看護師、コ・メディカルとともにチーム医療に貢献していけるよう業務に臨んでおります。



手術中の人工心肺・補助循環業務の様子



血液浄化センター



## 当院のICLSコースについて

臨床工学室 主任 永瀨 克弥



ICLSコース(以下コース)は日本救急医学会が認定する医療従事者を対象とした蘇生トレーニングコースです。蘇生に関するガイドラインは5年毎に改定されますが、このコースでは常に新しい知識を実技で学ぶことができます。

2006年に当院初となるコースを開催し、2009年から年1回、2012年からは年2回定期開催されるようになりました。現在では受講枠の増員、研修医対象の臨時開催など、ニーズが高まるにつれ規模が拡大しつつあります。

コースは1日かけて行われます。座学による学習は少なく、多くが実技を伴います。午前中は①胸骨圧迫(旧名称:心臓マッサージ)やAEDを用いる一次救命処置、②呼吸管理、③除細動器のスキルを学びます。

午後からは参加者6人のチームとなり、午前中に学んだ各スキルを組み合わせながらチーム蘇生を実践します。コースに参加した受講者は、午前中には緊張している方もいますが、終盤には自分の意見を出しながらチームと協力することができるようになります。

また、このコースでは1日だけの学習だけでなく、より学びを深めるために、指導する側であるインストラクターになることを推奨しています。ラーニングピラミッドと称される学習効果向上のステップとして、実際に教えることがより深い学びを得るとされているためです。

当院看護部では看護部長、師長にもICLS認定インストラクター資格所有者が多く、指導経験が成人教育の支えの一つになっています。現在当院ではコース開催の権限がある認定医師3名、学会認定インストラクターが15名以上在籍してお

り、四国域でも稀にみる講習開催環境が整った施設であると言えます。このコースの他にも、アメリカ心臓協会認定コースであるAHA(アメリカ心臓協会)の各コースやINARS(心停止回避コース)なども行われています。

今後は更に、計画的な長期救急教育も計画しています。現状に満足することなく院内の救急蘇生普及への取り組みを続けていき、地域医療に貢献できるよう努めていきたいと考えています。

